

平成 27 年度 学校法人 三幸学園 仙台こども専門学校 自己評価及び学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者：副校長 制野 理恵

学校関係者評価報告責任者：学校関係者評価委員会委員長 松村 弘美

1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、スポーツ分野の学校として「スポーツを通じて日本を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。

また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、スポーツ分野として「スポーツを通じて健康と楽しさを提供できる人材」を育成する人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている

2. 平成 27 年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

教育理念「技能と心の調和」の質の向上 ～人間性を高める教育の実践～

「皆から信頼・感謝されるこどもの未来を育む人材」を育成することを全国こども校で掲げ、単に知識や技術を教育するに留まらず、人間性を高める教育を併せて展開することにより、更に社会で役立つ人材を輩出することに取り組んでいる

▲教務力の向上

・退学者の軽減等の数値目標の設定

→退学率 7%未満

・精皆勤率の向上の数値目標の設定

→皆精勤率 40%以上

① 重点施策振り返り

○退学率について

・生徒の退学理由は様々であるが、入学後のギャップによる目標喪失・進路変更が増加傾向にあった。その為、入学後のギャップをなくすために入学前の保護者会・オリエンテーションなどを開催し、カリキュラム・学校生活の過ごし方などを伝えたことによって退学率が、6.5%になった。今後は、オープンキャンパス・保護者会などで上記の内容を伝え、入学後も生徒をサポートできるような体制の作りが必要である

○精皆勤率について

・社会人育成の場として、日ごろの体調管理・時間の管理の重要性を授業等で伝えていたが、37.9%という結果となった。今後は、体調管理・時間厳守は、ビジネスでの基本であることをホームルーム等で伝えていく必要がある。

② 学校関係者評価委員会コメント

・保育業界では、新人の人材育成の研修の人气が非常に高く、今の生徒が育ってきた社会情勢の変化にも関連しているのではないかと
・実際の授業内容が理想とギャップがあることや、大人よりこどもであれば対応することができると安易にしている生徒が入学してくる傾向が、保育士の養成校の先生方からの声が聞こえる

3. 評価項目の達成及び取組状況

(1) 教育理念・目標

【評価項目】	適切：4 ほぼ適切：3 やや不適切：2 不適切：1
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	④ 3 2 1
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	④ 3 2 1
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	4 3 ② 1
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	④ 3 2 1

①課題

▲教育理念・ミッション・ビジョン・人材育成像の浸透(生徒・保護者・高校)

▲教員の意識レベル格差

②今後の改善方策

▲ミッション・ビジョンポスターの学内掲示

▲目指す人材育成像ポスターのクラス掲示

▲保護者説明会等での告知と説明強化

▲全体会議・学年学科会議等を通じた教員の意識・指導の統一

③特記事項

▲教育理念から人材育成をより体系化するべく、三幸学園の教職員としてのビジョンを「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」と設定し、目指す人材育成像を「素直な心・感謝の気持ち・高い意欲を持ち続け、自ら考え自ら行動することで、社会に貢献する人材」と設定している。これらを踏まえて、こども校の目指す人材育成像を「皆から信頼・感謝されるこどもの未来を育む人材」と設定し、全教職員への浸透を実施している

④学校関係者評価委員コメント

▲学校が設立して3年が経ち、保育業界でも認知されつつある。以前は学校も落ち着いていなかったが、カリキュラム・施設も整備され落ち着いてきた様子がある

(2) 学校運営

【評価項目】	適切：4 ほぼ適切：3 やや不適切：2 不適切：1
目的等に沿った運営方針が策定されているか	④ 3 2 1
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	④ 3 2 1
運営組織や意志決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	④ 3 2 1
人事、給与に関する制度は整備されているか	④ 3 2 1
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	④ 3 2 1
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4 ③ 2 1
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4 ③ 2 1
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4 ③ 2 1

①課題

▲時間管理・業務効率を考え業務改善の推進

▲学校運営に必要な人材の育成

▲情報公開とシステム化の整備

②今後の改善方策

▲教職員の目的・目標の浸透

▲業務の優先順位付け、TB(タスクブレイクダウン)シートの作成

▲保護者に対して学校行事への見学や学校を開放し授業見学・個別面談の実施

▲産学連携の強化による学校教育活動の公開

③特記事項

▲年3回定期的に全教職員に向けての会議を実施

(運営方針の浸透と共に、情報共有を積極的に行なっている)

▲全教職員対象にビジョンミーティングも実施

(学園のミッション・ビジョンの浸透を図っている)

④学校関係者評価委員コメント

▲世の中では2・3年前からコンプライアンスに関して、厳しくなっている学校という性質上、生徒の個人情報管理のチェック体制を強化する必要がある

(3) 教育活動

【評価項目】	適切：4	ほぼ適切：3	やや不適切：2	不適切：1
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	④	3	2	1
教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4	③	2	1
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	④	3	2	1
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4	③	2	1
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4	③	2	1
関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	④	3	2	1
授業評価の実施・評価体制はあるか	④	3	2	1
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	④	3	2	1
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	④	3	2	1
資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	④	3	2	1
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	④	3	2	1
関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含め）の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	4	③	2	1
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4	3	②	1
職員の能力開発のための研修等が行われているか	4	③	2	1

①課題

- ▲業界の現状を踏まえた授業の改善
- ▲教員研修を通しての指導力向上
- ▲実践的な知識・技術を取り入れた授業改善
- ▲保育業界との関係性の構築

②今後の改善方策

- ▲内部・外部問わず教育研修機会増加検討
- ▲保育業界の方を招いて実習報告会の実施
- ▲OJT指導者による人材育成（担任1～2年目対象）の推進

③特記事項

▲業界の理解を高めるため保育関係者を招き、現場の現状・保育を目指す専門学生として学ぶべきことなど課題への改善に努めた。
(平成27年9月25日(金)実施)

▲キックオフミーティングにて、内部研修を行い指導力向上に努めた。(平成28年3月23日(水)実施)

④学校関係者評価委員コメント

▲実際、保育関連に関する実技授業はインプットするばかりで、アウトプットする場が実習のみである。アウトプットするような実践の授業はとても有効的である

▲書類関係に苦勞した書類作成につまずき退職を考える卒業生もいる。今後学校でも書類関係の指導の充実が必要なのではないかと思う

(4) 学修成果

【評価項目】	適切：4 ほぼ適切：3 やや不適切：2 不適切：1			
	就職率の向上が図られているか	4	3	2
資格取得率の向上が図られているか	4	3	2	1
退学率の低減が図られているか	4	3	2	1
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4	3	2	1
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4	3	2	1

①課題

- ▲退学率の低減
- ▲精皆勤率の向上
- ▲卒業生の社会的な活躍の現状把握

②今後の改善方策

- ▲週1回学年会議実施・教員間連携や保護者との連携を図り、精皆勤率の向上および退学率低減に努める
- ▲卒業生同窓会ホームページを活用し、卒業生の動向を把握し繋がる場として活用していく

③特記事項

- ▲平成27年度就職決定率 97.2%
- ▲平成27年度皆精勤率 37.9%
- ▲平成27年度退学率 5.6%
- ▲全員教員で教務役割分担をすることで教員の意識を上げる取り組みを実施
- ▲出席不良時数を生徒に伝え、自己管理を促す指導した

④学校関係者評価委員コメント

▲離職を防ぐためにも、自分はどういう保育をしたいのかを、事前に調べていくことが重要である。最終天秤にかける際に「待遇面を優先するのか」「やりがいを優先するのか」と迷ったとき「こどもとのやりがい」を優先すれば離職を防ぐ事ができる傾向がある。生徒だけではなく、先生に対しても就職に関する研修を実施する必要性がある

(5) 学生支援

【評価項目】	適切：4 ほぼ適切：3 やや不適切：2 不適切：1			
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4	3	2	1
学生相談に関する体制は整備されているか	4	3	2	1
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4	3	2	1
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4	3	2	1
課外活動に対する支援体制は整備されているか	4	3	2	1
学生の生活環境への支援は行われているか	4	3	2	1
保護者と適切に連携しているか	4	3	2	1
卒業生への支援体制はあるか	4	3	2	1
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4	3	2	1
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4	3	2	1

①課題

- ▲進路・就職に関する支援体制の見直し
- ▲卒業生の転職・再就職支援に対する支援
- ▲退学防止のための学生相談に関するさらなる支援体制の整備

②今後の改善方策

- ▲進路・就職に関する支援体制の改善の為、就職シラバスの作成や進路指導室の設置
- ▲退学防止の為、学生相談に関する体制の整備として、カウンセラー2名配置
- ▲卒業生同窓会サイトや学校HPを活用し、求人案内の告知をしていく

③特記事項

- ▲保護者との連携するために、期毎に成績表、クラス通信・学校予定などを郵送し学校理解を深めている

④学校関係者評価委員コメント

▲保育の世界は、気づきが多く出来ないといけない。しかし、育ってきた環境が人と多く接していない状況があり、当たり前の事が当たり前前に出来ない生徒が多いので、今後生徒をどう育成していくか課題である

(6) 教育環境

【評価項目】	適切：4 ほぼ適切：3 やや不適切：2 不適切：1			
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4	3	2	1
学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4	3	2	1
防災に対する体制は整備されているか	4	3	2	1

①課題

- ▲防災訓練・防災に対する組織作り
- ▲生徒数に対して、実習先が不足している現状

②今後の改善方策

- ▲防災訓練の実施・防災に対する研修会実施
- ▲県外実習巡回や園訪問の強化

③特記事項

- ▲2階にこども保育園を新たに開園
- ▲全教職員向けに一次救命処置（心肺蘇生・AED取扱い）の講習を実施
- ▲平成27年度より「大地震対応マニュアル」を作成し、全教職員・生徒へ配布

④学校関係者評価委員コメント

- ▲施設に関しては色々と整備され保育を学ぶ環境としては素晴らしい

(7) 学生の受入れ募集

【評価項目】	適切：4 ほぼ適切：3 やや不適切：2 不適切：1			
学生募集活動は、適正に行われているか	4	3	2	1
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4	3	2	1
学納金は妥当なものとなっているか	4	3	2	1

①課題

- ▲定員充足のための生徒募集活動の強化
- ▲職業実践専門課程の認定申請

②今後の改善方策

- ▲オープンキャンパスへの案内の強化を図る
- ▲教育の成果を高め、「保護者・高校から選ばれる学校」へ向けて教育の改善を行う

③特記事項

- ▲特になし

④学校関係者評価委員コメント

- ▲特に問題なし

(8) 財務

【評価項目】	適切：4 ほぼ適切：3 やや不適切：2 不適切：1			
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4	3	2	1
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4	3	2	1
財務について会計監査が適正に行われているか	4	3	2	1
財務情報公開の体制整備はできているか	4	3	2	1

①課題

- ▲第三者からも閲覧しやすい財務情報公開

②今後の改善方策

▲学校運営がより充実した運用ができるように、予算・収支計画の精度を高める

③特記事項

▲情報公開資料も H27 年度法人財務諸表を掲載

④学校関係者評価委員コメント

▲委員会開催時 27 年度決算が終了していなかったため 26 年度財務諸表を参照して財務情報を共有した

(9) 法令等の遵守

【評価項目】	適切：4 ほぼ適切：3 やや不適切：2 不適切：1			
法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	④	3	2	1
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	④	3	2	1
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4	③	2	1
自己評価結果を公開しているか	④	3	2	1

①課題

▲自己評価から問題点改善へ精度を高める

②今後の改善方策

▲問題点に対しての改善策を具体化し、計画的に実施する

③特記事項

▲自己評価結果を学校 HP にて閲覧できるように対応

④学校関係者評価委員コメント

▲上記(2)同様、生徒の個人情報管理のチェック体制を強化する必要性がある

(10) 社会貢献・地域貢献

【評価項目】	適切：4 ほぼ適切：3 やや不適切：2 不適切：1			
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	④	3	2	1
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	④	3	2	1
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	4	③	2	1

①課題

▲ボランティア活動のさらなる推進

▲地域貢献をしながら産学連携の活動を推進する

②今後の改善方策

▲地域の方が利用できるような講座・イベントの立案、実施

▲産学連携の活動の強化

③特記事項

▲学校近隣の地域の子どもたち・保護者を学校に招待し、8 階スタジオ隣保育室で遊び場を提供

▲地域イベントへの参加①青葉祭りボランティア(5 月)②BiVi（仙台駅東口商業施設）での七夕イベント(7 月)

ハロウィンイベント(10月)

④学校関係者評価委員コメント

▲仙台こども保育園でのボランティア活動以外にも直接、保育業界の方と在学中に関わる部分を増やしてはどうか

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

▲本評価からの課題として、①学校設立4年目ということもあり、高等学校・保育業界や高校生・保護者に対して、学校の教育理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などの浸透がまだ周知されていない現状である。②若い教員が多い為、教員の業界に対する理解、指導力・資質向上のための研修・勉強会の実施が必要である。③今後、業界に多くの卒業生を輩出することにより社会的な活躍及び評価を把握する仕組みを確立することが必要である